

N
A
G
A
O
K
A
K
E
I
K
A
N

景観ってなんだろう？

普段、私たちの生活の中で耳にする『景観』とは、いったいどんなものなのでしょうか？

「景色」や「風景」という言葉は知っているけれど、『景観』って…？

そこで、『景観』について市民の皆さんにアンケートを実施しました。

Q. 「景観」とはどんなものか知っていますか？

『はい』と答えた人の意見は、

- ・海外などのきれいな景色。
- ・四季が感じられる自然景観、歴史のある建築物やまちなみ。
- ・自然の景色に、人工的なものが加わると、「景観」という言葉になると思う。
- ・心が安らぐ自然の景色、地形や風土を生かしたまちなみで、自然と目に入ってくるもの。
- ・自然の風景に地域の様々な資源などが調和していること。
- ・人工的なものと、自然の景色のバランス。
- ・自然とマッチした、心が和む空間景色。
- ・陸、海、空。

など、様々な意見がありました。



より多くの人が『景観』を身近に感じ、『景観』について考えるようになるとよいですね。



思ったよりも、多くの人が『景観』とはどんなものかを知っているようですね。

『いいえ』と答えた人は、

- ・景観…？わからないです。
- ・景観って景色じゃないの？
- ・もみじというイメージ。
- ・最近聞くようになった言葉。
- ・口に出すよりは、目で見る言葉のように思う。
- ・街、町、まち、マチ？

などといった意見が、多くありました。



新発見！！穴場スポット

知る人ぞ知るすてきな景観をご紹介します!!



長岡市小国町の法坂にある、小国和紙生産組合の楮畠です。楮は和紙の原料です。写真は芽の剪定をした7月のもので、背丈が2mもあり、ここからまた4~5mまで成長します。一面に広がる楮畠は圧巻です！

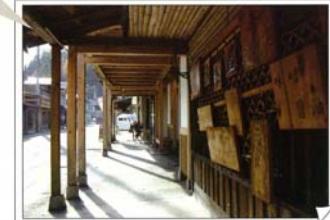
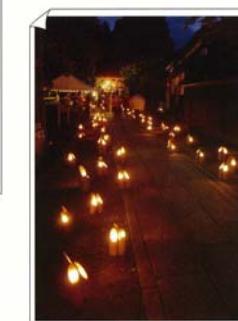
Q. あなたの考える「良い景観」はどこですか？



山古志の棚田は幻想的な景観を生み出すんだ。



はちくやま あいのはらかんのんどう
小国八石山と相野原觀音堂の景観は、
これからもずっと残していきたいよね。



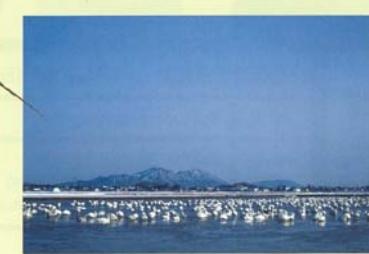
和島には、
良寛さまゆかりの史跡が多いわ。



越路のもみじ園では、
日本の秋を感じることができます。



寺泊の山側から
海を眺めた時の景観は
開放感いっぱい！



このほかにも、
・信濃川と河川敷
・棚田屋の古いまちなみ
・樂山亭から眺める市街地
・長生橋
・蓮花寺の大杉
などの意見がありました。

アンケートにご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



専門家の考える『景観』とは？
お話を聞いてみましょう！
裏のページへ…

おおめしんでん
長岡の北東部、中之島の大沼新田地内には、
おちば
多数の白鳥が稲刈後の落穂を求めて、10月から
たんすい
3月初旬までの湛水状態の時に飛来します。
白鳥にとって、ここは最高の食事場なのかもしません。写真は弥彦山をバックに撮ったもので、この時期だけの景観です。

—専門家からみた景観とは—

景観という言葉は、英語では **タウンスケープ** *townscape* といいます。オックスフォード英語辞典によると、1856年に初めて出てきた言葉で、歴史的にみてもわりと新しい言葉です。日本では、美しい人工の空間「都市美」という概念で、美観地区を倉敷市が1969年に日本で初めて指定しました。これまで日本では、歴史的街並みが「景観」という概念に近かったのです。長岡では、15年ほど前に野立て看板規制のルールを作ろうとしたことが、景観を議論した初めての試みだと思います。これは、風景という自然の景観を人工的なもので損なわないようするために、どうするべきかを問う新しい視点だったと思います。その後、時代は景観を重要ととらえるようになり、景観法が平成16年に施行されました。

長岡の街づくりが始まって十数年。市役所の機能が大手通りに移り、市民の広場ができ、新しいビルが建つ今、新しい長岡の街はどういう風にしなければいけないのか。市民が、街を美しくするために何をすべきか、ということを検討して、景観を乱すものを排除しなければなりません。長岡で人工的に街をつくるときに一番プラスになるのは、自然環境である信濃川です。これだけの幅の川をふところに抱いている街というのは、

おそらく日本では長岡以外にないと思う。それはすごく恵まれた条件。そういう大自然に対して、人工的なものが、障害を与えないような街をつくらなければいけない。

長岡は、長岡に住む人たちの力で、21世紀の新しい感覚の「景観」をつくりだし、自分たちが誇りに思える街をつくっていかなければならないですね。



長岡造形大学理事長 豊口 協（長岡市都市景観審議会会長）

わたくしたちのケー カン



編集後記

「景観ってなんだろう？」をテーマにしたこの景観情報紙。作った私たちも、景観とは何なのかをたくさん考えました。作成していく中で、長岡の良い景観スポットを多く発見することができ、長岡のことも見直しました。この情報紙を多くの人が手に取り、景観について考えることによって、長岡の良き景観を守ってもらいたい。もっと、長岡のことを好きになってもらいたい。この情報紙には、そんな私たちの思いが詰まっています。



長岡景観情報紙 NAGAOKA KEIKAN

平成21年3月発行

発行	長岡市都市整備部都市計画課
編集	原鉄之助 粉川睦（長岡造形大学） 高橋南（長岡造形大学） 番場侑太（長岡造形大学） 松澤佑夏（長岡造形大学）
協力	小国和紙生産組合 アンケートにご協力いただいた皆さん